

| | | |
|---|---|--|
| <p>学校教育目標</p> <p>杉の木とともに 大地に根を張り 幹を太らせ たくましく伸びる</p> <p>○朽木の自然と地域の人々とともに、ふる里を愛し、ふる里を語れる</p> <p>○豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める</p> <p>○夢や目標を持ち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く</p> | <p>昨年度の評価概要</p> <p>○生徒の主体的・自主的な活動への評価が生徒、教職員共に高評価で良い。不登校生徒がいることが気になり、地域ぐるみの対応が大切だと感じる。</p> <p>○生徒の学習での積極的な発言やタブレット有効活用は評価したい。今後は、個々への手立てを期待したいし、授業改善にもしっかり取り組んでほしい。</p> <p>○学校・学級づくりが親子とも高評価であり、今後も教育相談等の充実を願いたい。小規模校ゆえに目が届きすぎること気をつけてほしい。</p> <p>○今後、学校・地域連携カリキュラムの実施に向けて、地域の方を巻き込み進められるとよい。卒業後、新しい環境に順応できる生徒の育成を期待する。</p> | <p>中期的目標</p> <p>□『読み解く力』の視点を踏まえた授業づくり</p> <p>□目的意識と主体性を発揮できる場面の設定</p> <p>□小中一貫教育の発展</p> <p>□朽木を愛する心を育む体験活動の推進</p> <p>□キャリア教育の充実</p> <p>□学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進</p> |
|---|---|--|

| 評価項目(指導力点) | 指標:到達目標(成果指標・取組指標) | 達成状況 | 評価 | 改善方策 | 学校関係者評価 |
|--|--|---|----|--|--|
| 知「学習指導」 ◎「読み解く力」を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造 ◎ICTの有効活用 ◎保幼小中一貫教育を通じた系統性のある学習指導 ◎家庭学習の習慣化 | ○「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上 | 「授業に真剣に取り組む、授業が楽しく感じられた。」は100%、「授業の内容はよくわかった。」は95%であった。 | A | 学習意欲を高めるための課題提示や学習方法を工夫していく。 生徒が個々の考えを深めるための手立ての研修を重ね、実践していく。 ICTの有効活用について研修を重ね、さらに積極的に活用していく。 課題の出し方や提出の仕方を工夫し、効果のあった取組を継続していく。 保幼小中のつながりを大切にしたい取組であり、今後も継続していく。 | ICT機器の有効活用のため、教える側の力をつけてもらえるように願う。 ・家庭学習に関しては、親が求めているものと子どもが実行していることとのズレがある。 ・個人で勉強することが苦手な子が多ければ、みんなで勉強できる機会を与えるといったことはどうか。 ・授業改善に対して、生徒・教員共に評価が高く喜ばしい。今後、さらに意欲的、主体的な学びに取り組んでほしい。個々への手立てを期待したい。 ・BUTは生徒の指導力、理解力も鍛えられるので、充実した取組を今後も継続していただきたい。 |
| | ○全教科で『読み解く力』の視点を踏まえた授業改善90%以上 | 「読み解く力」の視点を踏まえた授業改善を行い、授業力の向上に努めた教職員は100%であった。 | A | | |
| | ○ICT機器の有効的な活用80%以上 | ICTの有効的な活用について全職員で取り組んでいる。生徒も100%が有効なツールとして活用できたと答えている。 | A | | |
| | ○宿題、自主学習、読書等の家庭学習が、1日60分以上の生徒が70%以上 | 家庭学習の評価については、生徒は81%であったが、保護者は48%であり、意識のずれがある。 | B | | |
| | ○小中合同授業(Build Up Time)、保幼小中合同授業研究会の充実80%以上 | 小中合同授業研究会や小中合同授業(BUT)の取組は、計画的に運用され充実したものになっていたと答えた教職員は89%であった。 | A | | |
| 「道徳、生徒指導等」 ◎いじめを許さない生徒指導の推進 ◎生徒個人に寄り添った教育相談の充実 ◎豊かな人間性・社会性をはぐくむ体験活動の推進 ◎道徳の授業と評価の研修 | ○居心地のよい学校・学級づくり(学校・学級は安心して過ごせる)90%以上 | 「学校、学級は安心して過ごすことができ、学校に来ることは楽しい。」と答えた生徒は100%、保護者の評価も、95%であった。 | A | 小規模校の良さを生かし、一人ひとりを大切にしたい取組を継続していく。 取組を検証しながら継続し、より良い生徒理解に努めていく。 SC等の関係機関と連携し、生徒の思いに寄りそう教育相談を継続していく。 生徒が目標を振り返る時間を確保するなど、達成感を味わえる工夫をしていく。 教材の選択や指導方法、評価の仕方など研修を重ねていく。 | ・学校以外の居場所が必要な生徒がいることは当たり前なのでそこを考えていきたい。 ・人数が少ないことで目が行き届きやすい一方で、地域の者として関わる上で「監視」にならないように心がけたい。 ・夢や目標に前向きに頑張ったという生徒の高評価は、高く評価したい。不登校生徒に対して絶え間ない息の長い支援をお願いしたい。 ・体験活動は生徒の心に残るところが多いと考えるので、今後も大事にしてほしい。 |
| | ○「ストップいじめ行動計画」に基づくいじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催(毎日) | いじめの早期発見、早期対応のため毎日の情報交換、振り返りアンケートなどに取り組んだ。(生徒評価90%、教職員評価88%) | A | | |
| | ○SCと連携しながら、生徒の思いに寄り添った相談活動の充実90%以上 | 「相談しやすい雰囲気大切にしている。」教職員は100%、「先生は、悩みや相談事に親身に対応してくれる。」と答えた生徒は95%であった。 | A | | |
| | ○夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が80%以上 | 今年度の指導力点の一つであり、生徒も少しずつ意識ができ、生徒の肯定的な評価は95%であった。 | A | | |
| | ○「考え議論する道徳」への授業改善90%以上 | 教職員の授業改善への意識は100%と高く、生徒の肯定的な評価も100%であった。今後も発問や交流の仕方を研修していきたい。 | A | | |
| 体「体育・保健・部活動」 ◎生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成 ◎体力の向上と健康の増進 ◎望ましい生活習慣の育成 | ○部活動の意欲的な取組90%以上 | 生徒の肯定的な評価は91%であった。2つの部活動であるが、個に応じた目標設定など意欲を引き出す指導が今後も重要である。 | A | 個に応じた目標を設定するなど主体的に取り組む手立てを工夫していく。 保護者と連携し、規則正しい生活の重要性を様々な場面で発信していく。 | ・部活動は、先生の負担、得意不得意、生徒個人のやる気の有無、地域指導者の活用の仕方・・・バランスが大事かなと思う。 ・部活動に対する生徒の思いが、「しっかり練習して力をつけたい」「みんなと楽しく活動したい」に分かれるように思うので、指導の工夫が必要と考える。地域の方の協力も考えながら生徒の力を伸ばしてほしい。 |
| | ○規則正しい生活習慣の定着80%以上 | 生徒の肯定的な評価は86%であったが、遅くまで起きている生徒は少ない。保護者の肯定的な評価は79%であった。 | B | | |
| 地域とともにある学校 「保幼小中一貫教育、地域連携」 ◎学びの連続性を重視した教育の推進 ◎学校と地域の協働による新しい文化の創造と発信 | ○滑らかな接続を目指す、保幼小中一貫教育による職員の連携、協力、協働80%以上 | 保幼小中間での相互の授業参観や研究会を通して、連携が深められたと答えた教職員は88%であった。 | A | 今年度の取組をしっかり振り返り、来年につなげていく。 学校・地域連携カリキュラムの検証と見直しを継続していく。 学校の様子を保護者や地域の方に伝える通信になるように工夫していく。 | ・保幼小中で研修会をされていることは、12年通じた発達が見通せるのでとてもよい。 ・協働の意味(地域の方も当事者意識を)(先生方も地域のことを知る)を理解して活動できることを望む。 ・地域での取組に積極的に参加する生徒たちに頼もしさを感じた。今後も活躍を期待する。 |
| | ○学校運営協議会、地域学校協働活動との協働による教育活動の充実 | 「地域の行事に積極的に参加している。」生徒は77%であったが、地域の方の協力や地域貢献活動を充実させることができた。 | A | | |
| | ○「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行により学校の様子がよく分かる90%以上 | 「学校だより」「保健だより」等を随時発行してきた。保護者の肯定的な評価が90%以上であり、今後も継続していきたい。 | A | | |
| 「主体性、自主・自律の精神の育成」 ◎主体的な活動による自主・自律の精神の育成 ◎自己の課題の克服と、自己研鑽への取組 ◎自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化 ◎地域貢献活動の推進 | ○「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組90%以上 | 意欲的に取り組むことができた生徒は100%だったが、教職員の評価は50%であり評価に差が見られた。 | B | 次年度の「自分磨きタイム」は、日課の関係で行わないこととする。 自己肯定感や達成感を味わえるように支援をしていく。 3年生が1、2年生をリードし、意欲的に活動できるように支援していく。 地域との連携を大切に、より地域に貢献できる活動内容を検討していく。 | ・生徒会の役員を中心に中学生はたいへん地域貢献活動に参加してくれて、自己有用感・達成感をもつことができた。 ・先生と生徒が「校則」「ルール」について考えてみる機会をもってみてはどうか。 ・体育祭や文化祭等生徒活動の充実ぶりが感じられた。 |
| | ○学級活動、生徒会活動(行事等)、体験活動における主体的、創造的な取組90%以上 | 体育祭や文化祭の企画運営を生徒会が中心に行い、個々が意欲的に取り組んだ。1学期100%・2学期90%の生徒が充実していたと答えた。 | A | | |
| | ○縦割り集団を生かした活動(委員会・清掃)への取組90%以上 | 「縦割り活動を生かした活動ができた。」と答えた教職員は100%、掃除に真剣に取り組んだ生徒は95%であった。 | A | | |
| | ○地域貢献活動への積極的な参加 | 地域貢献活動(通学路の掃除、花壇の植え替え、雪囲い、プランターの運搬等)に全校生徒、環境委員会で取り組んだ。 | A | | |

| 学校関係者評価 | 総 | 評 | 評価 | 学校関係者評価を踏まえての改善点 |
|---------|--|---|----|--|
| | ・地域とつながろうという生徒の思いや先生方の協力があり、地域の中で中学生の力強さや頼りがい等いろいろな場面で見ることができた。今後も中学生の活躍を大いに期待する。 ・多様性が求められる現在、多様な人材や多様なアイデアや経験を生かして「革新」や「新たな価値」が生みだされる。多様なゆえ、意見のぶつかり合いもあるが、同じ目標に向かう共存意識を高めることで、より良い学校生活が送れると思う。 ・バスの時間が限定的で、放課後活動にしばらくがある中、先生方がより有意義に生徒たちが過ごせるように考えてくださっていることがわかりありがたい。 | | B | ○誰もがわかる授業を目指して、今後もICTの有効活用や個に応じたきめ細かな指導の研修を重ねていく。 ○個々の生徒を大切にしたい教育相談の充実を図るとともに、不登校生徒や別室登校生徒の対応は関係機関等と連携し、生徒の望ましい成長に繋がるものにしていく。 ○「自分磨きタイム」を廃止することで効果的な日課運営に努め、昼休みの活用・部活動・生徒会活動の充実を目指す。また、教職員の働き方改革を推進する。 ○総合的な学習の時間や特別活動を中心に、生徒の主体的な活動を推進し、自主・自立の精神の育成に努める。 ○学校・地域連携カリキュラムを検証し、学校運営協議会委員の方と熟議を重ね、地域との協働を進める。 |